

〈日本〉 文化の交差点として

総合文化研究 12 号
目次

2 巻頭言

書評

6 土着的革命としての明治維新
——メーチコフの日本観の先駆性
渡辺雅司

163 柳原孝敦著
『ラテン・アメリカ主義のレトリック』
加藤雄二

30 オペラ『黒船』と映画『黒船』
——アメリカ人による「唐人お吉」の表象
中山和芳

175 谷川道子・柳原孝敦著
『劇場を世界に』
柴田勝二

40 堀辰雄「十月」論
——古典的風土および古典の内在化に関する考察
村尾誠一

178 カール・クラウス著／山口裕之・河野英二訳
『黒魔術による世界の没落』
柳原孝敦

57 日本からの「エクソフォニー」
——多和田葉子の文学営為の位相
谷川道子

182 今福龍太著
『群島—世界論』
米谷匡史

74 あらかじめ失われたものの痕跡
——Kazuo Ishiguro の A Pale View of Hills における
「日本」と語り
加藤雄二

184 シーブーラパー著／宇戸清治訳
『罪との闘い』
岡田知子

95 記憶のリアドレス
——『ピクチャーブライド』と日系移民女性史の語り直し
李孝徳

寄稿

117 トニ・モリスン文学における身体的欠落の「暴力」
荒このみ

142 「倒幕派」としての漱石
柴田勝二

-- 総合文化研究所 2008 年度活動報告
編集後記